

この人に聞く



日本銀行広島支店長
片桐大地

「中国地方の歴史の厚み」

昨年6月に広島支店長に就任しました。以来、中国地方の地図を眺めては、毎週のように各地を訪ね歩いています。

最初の週末に訪ねた場所は、広島県安芸高田市にある郡山城址です。460年程前に中国10か国を平定した毛利元就の居城です。幾重にも巡らせた土塁や山頂部には石垣の跡も残る大きな山城で、見応えがあります。夏の大変暑い日で体に堪えましたが、112万石に及ぶ今の中国地方のかなりの部分を治めた人物に、思いを馳せることができました。

世界の多くの人がヒロシマの名を知っており、その名から最初に思い浮かぶのは、80年前の原爆投下とその後の復興の軌跡です。日銀広島支店も凄惨な被害を乗り越えた一員です。ただ広島には、その80年だけでなく、毛利輝元が築城し、江戸時代の繁栄を経て、近代には西日本有数の大都市に発展。軍都として重要な機能も担うことになった歴史があります。中国地方という視野で歴史をみると、出雲では遠く神話の世界まで、また吉備では古墳時代まで遡ることができます。瀬戸内海は平家の隆盛と滅亡あたりから教科書の重要な場面に度々登場しますし、江戸中期から明治前半にかけては、北前船が中国地方の沿岸を回り込むように海の道で結び、往時の繁栄を各地で垣間見ることができます。山間

部では、近代にかけての日本の産業を支えたたたら製鉄の跡を広く確認でき、明治維新の立役者達の足跡を辿る楽しさもあります。

広島に来て驚いたことの一つに、外国人観光客の多さがあります。宿泊施設などに伺っても、特定の国に偏ることなく世界中から訪れており、その勢いはここ数年増しているようです。平和記念資料館では、肩が触れ合うほど混み合う中、賑やかなイメージが強い米国人一家が黙って展示に見入っていますし、瀬戸内海の島々を自転車で巡るグループも多くみかけます。更に今、世界的なホテルチェーンがこぞってこの地の高いポテンシャルを見出し、ラグジュアリーホテルの進出が相次いでいます。この先、観光客の数だけでなく、ゆとりを持って長期滞在をする方が増えると思われ、中国地方の観光は今、新しい質的变化が生じつつあると感じます。

改めて地図を眺めると、中国地方には、今の日本の社会や文化、考え方など（多様化していますが、外国人が思い描くようなベーシックな部分）が、長い歴史の中で形作られてきた過程を感じられそうな要素が点在しています。訪れた方が、世界遺産だけ観て帰るのではなく、そうした歴史の厚みにも触れて日本への関心を深め、リピーターになっていただく。そのポテンシャルがあると感じます。私たちがそうした個々の要素を再評価するとともに、中国地方を大きな観光資源群として面的に捉え、訪れた方を相互に紹介することも大切になりそうです。山陽から山陰に抜けるのは難儀と聞くことがありますが、実際に車で走ると2時間程であり、道中に興味深い場所も点在しています。